

# 「次世代の人材を育成するために変革する教育システム」 特集号の発刊にあたって

後藤田 中

(香川大学創造工学部, 学会誌編集委員会筆頭幹事)

## 1. はじめに

本特集号では、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させた「Society 5.0」社会システムの実現に向けた不可欠な人材として、数理的推論やデータ分析力を含むリテラシーや、論理的思考力、規範的判断力をベースに社会システムを構想・設計する力を持つ人材の育成をテーマとした。

このテーマの下、令和7(2025)年度以降に出題される大学入学共通テスト「情報」の試作問題の傾向や国立大学の同科目の受験の必須化にもみられるように、専門分野を問わず、数理・データサイエンスの素養を身につけ、また非常に多くの分野で利用が広がるAI活用の素養にも含めた「次世代の人材を育成するために変革する教育システム」の論文を幅広く募集した。

本テーマは、2021年度の特集号テーマ「Society 5.0に向けたオンライン学習およびAI・数理・データサイエンスと人材育成支援に関わる教育システム」、また2020年度の特集号「SDGs (Sustainable Development Goals) に貢献する教育システム」にも密接に関連し、人材育成の価値観を継承している。このSDGsを実践するうえで戦略の柱としているのがSociety 5.0である。Society 5.0が目指す社会では、世界規模でさまざまな課題を解消する必要があり、国連が掲げるSDGsの達成に通じる考え方も捉えられている。SDGsの一つに挙げられている「包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」ことはSociety 5.0で述べられる格差なくモノやサービスを質の高い形で教育を提供することである。経団連による『「次期教育振興基本計画」策定に向けた提言』<sup>(1)</sup>においても、産学間の合意に基づき文理問わず、

数理的推論やデータ分析力を含むリテラシーや、論理的思考力、規範的判断力などを身につけることが求められている。この状況下で、教育システム情報学領域における知見が共有されることによって、Society 5.0、国際的基準としてはSDGsで共有される価値観、すなわち次世代の人材育成に貢献できる教育システムのさらなる発展と変革が期待できるものである。

## 2. 論文の投稿数と判定結果

論文投稿締切は2022年6月1日から15日への約2週間の延長を経て、17編(一般論文7編、実践論文6編、ショートノート4編、実践速報0編)の投稿を受け付けた。投稿数は、ここ最近5年間の平均を上回ったが、昨年の23編から減少した。これは、後述する特集論文研究会での発表件数が、2021年はオンライン学習の取り組みに関する研究や人材育成に関する教育研究成果の公開の場として注目され大幅な件数の増加になったことに比べ、落ち着いたことを示している。

査読においては、採録可否の判定とともに、特集号と整合するかについても厳正に審査を行った。その結果、採録は7編、うち特集号での採録は4編(内訳: ショートノート3編、実践速報1編)であり、残りの3編(内訳: 一般論文1編、ショートノート2編)は、一般号として採録となった。なお、採択率は、一般号へ変更となった論文を含め、41%(採録7編/投稿数17編)であり、前回特集号の採択率43%に比べやや低下した。

特集号の判定に至っては、一回目判定において、一般号と同様の基準で、採録に値するかを判断した。ただし、特集テーマとの適合性が十分でないと判断され